*For parents, For students*

# 「　笑顔で輝く島農のために　」
## ～ 人として大切な「土台」づくり ～

校長　前田　達彦

## １　はじめに

保護者の皆様方には、日頃から本校の教育活動に多大なるご支援・ご協力を頂いておりますことに、心から感謝申し上げます。

「誠実　勤労　創造」の校訓のもと、７０年目の歩みとともに新たな伝統を築いていく取組を行っているところです。

## ２　来年度は学科改編の完成年度、そして創立７０周年へ

令和２年度の生徒募集から３学科３クラスとなりました。学科名は「農業ビジネス科」「食品サイエンス科」「生活創造科」で、来年度入学生で新体制の完成年度となります。

時代にあった「島農スタイル」を確立し、継続することで本校の存在意義をより強固なものにしていく覚悟です。

来年の１１月には「島原農業高校創立七十周年記念式典」を予定しております。この大きな節目にふさわしい「新・島農」としての良いスタートが切れますよう準備を進めてまいります。

## ３　周りを幸せに、そして自分も幸せに

６月２２日付けの長崎新聞の「声　みんなのひろば」という欄に目が留まりました。この欄は、一般の人が自分の考えを投稿する欄です。その日は「若者のひろば」ということで、南島原市の中学生（１５歳）の投稿が載っていました。「自分の言葉で、周りを幸せに」というタイトルがつけてありました。

**『「他人を幸せにするのは、香水をふりかけるようなものだ。ふりかけるとき、自分にも数滴かかる。」この言葉は他人を幸せにすれば自分も幸せになっていくという意味があります。例えば、あいさつでも、あいさつをされたら嬉しい気持ちになるし、あいさつをした人も心がすっきりして良い気持ちになります。だから私は「自分も他人を幸せにできるような人になりたい」と心を動かされました。言葉には不思議な力があり、たった一言で相手が嬉しくなり、生きる力を与え、生きる方向を示してくれます。一方それとは逆に、たった一言で相手を苦しめ、生きる力を奪ってしまう悪魔のような力もあります。だから私は他人を幸せにできるような言葉をかけていきたいです。周りの人を幸せにしていくことで、自分も幸せになります。世の中の人が今よりさらに幸せになっていけるように頑張っていきたいです。』**　＊6月22日付 長崎新聞「声 みんなのひろば」より

私がこれを読んで、なぜ心をひかれたか。そのポイントは、「人を幸せにして、自分も・・・」というところです。この中学生の投稿を読んで、「本当に大切なものって何かな」と考えさせられました。

私は学校の教師ですから、日頃から勉強しなさい、学力や知識・技術を身に付けなさい、資格を取りましょう、体力をつけましょう、部活を頑張りましょうと、様々な形で生徒へ投げかけています。高校生として取り組むべき当たり前のことです。これからもそう言い続けるでしょう。しかし、それよりも何よりも本当に一番大事なことは、相手を「思いやる心」、相手に対する「優しさ」、「相手の立場」に立って振る舞えるということ、人としてそれを備えていることであると思っています。「思いやり」や「優しさ」や「相手の立場」というものが土台（根底）にあって、その上に学力・知識や技術、体力等が積み上げられてこそ、それらは正しく機能していくのではないかと思っています。したがって、高校生であるお子様方には、まずは相手の事を思いやれる優しさという、自分なりの分厚い土台を築いていってほしいと願っております。

たまたま目に留まった中学生の投稿に私の心が揺さぶられ、校長訓話の折にお子様方に話をして、「今の自分の生き方、あり方、考え方、自身の振る舞いなどを考えてみて」と、投げかけてみたところです。

## ４　おわりに

学校は、コロナ禍によって、過去に経験のないような試練の日々を現在でも過ごしています。生徒・職員ともに、なかなか終息が見えない辛い日々です。新しい変異ウイルスの猛威、第６波が全国的拡大するのではないかという不安など、まだまだ予断を許さない状況です。

そういう中にあっても、いわゆる「学びの保障」という観点から、可能な限りの教育活動は進めていきたいと思っています。これからも、様々な感染対策を継続しながら、お子様方が明るく楽しい学校生活を送れるよう、そして、「笑顔で輝く島農」であり続けるために、職員一同本気で取組んでまいります。

（ＰＴＡ新聞（瓢箪畑）　校長挨拶より）